

<平成 25 年 2 月 20 日記者会見 市長コメント>

平成 25 年度予算の編成作業が、このほど終了いたしましたので、その概要についてご説明いたします。

予算編成方針では、元気な十勝・帯広の実現に向け、市民の納得感・満足感を得られる予算とするために、「フードバレーとかち」をはじめとする各施策において、目的達成に向けた分析や発想の転換などにより質の向上を目指すこととし、社会情勢や本市がおかれている状況などを鑑み、重点として、

『ひとが躍動し、地域経済が強いまちをつくる』

『健やかに育ち、つながりが強いまちをつくる』

『地球にやさしく、災害に強いまちをつくる』

の3つを設定しました。

編成作業においては、国の政権交代に伴い、地方交付税をはじめとする財源の見通しや、制度改正に伴う本市への影響などが不透明な状況であると同時に、国の緊急経済対策による補正予算等の活用など、平成 24 年度補正予算と一体的に進めなければならず、非常に難しい調整を余儀なくされました。

一方で、庁内においては、政策・施策評価と予算の連動をさらに洗練し、課題の重要度や優先度を見極めるため、事業選択までの根拠・プロセスを一つひとつ検証・確認するとともに、各部・各施策の連携をより強め、一丸となって取り組んでまいりました。

結果、平成25年度予算は、地域経済や産業の基盤を強化し、市民が安心や温かみを実感し、そして地域資源を背景としてそれらがつながっていく予算になったと思っております。

それでは、お手元の資料「平成25年度予算重点施策」をご覧ください。

この資料は、予算編成方針でお示した3つの重点に基づき、平成25年度予算を整理したものです。背景で矢印が円状となっているのは、3つの重点が相互に関連しあい、またその効果が循環することにより、市民の幸せにつなげていきたい、という思いを込めています。

さらに、それぞれの重点のなかで、施策を基本とした単位で事業をまとめており、その小見出しの下には、市民の満足度向上に向け、目指す姿を簡潔に表しております。

それでは、順次、この資料に沿って、主な事業を中心にご説明いたします。なお、「フードバレーとかち」の取り組みにつきましては、別の資料により説明させていただきます。

はじめに、『ひとが躍動し、地域経済が強いまちをつくる』です。

「産業の振興」につきましては、地域の産業経済の実態を調査・分析し、産業振興ビジョンの効果的・効

率的な推進を図るほか、工業団地の早期完売に向け、利子補給制度の創設や企業訪問等により販売を促進してまいります。

「帯広・まちなかへの集客」につきましては、開広団地再整備、西2・9西地区優良建築物等整備により、市内中心部の賑わい創出や居住の促進を図るほか、ばんえい競馬について、更なる運営コストの削減や収益確保に向けた取り組みを行ってまいります。

「景気対策事業」につきましては、一部平成24年度補正予算を含め、40億1,200万円の事業費を計上しました。地域経済の状況は、持ち直しの動きが見られるものの、長引く景気低迷の影響が依然として残っている状況を考慮し、国の緊急経済対策等の活用により、栄小学校校舎改築、学校給食調理場建設などを前倒しして実施するほか、規模や時期、環境などに配慮しながら、平成24年度当初予算時と比較し2倍以上の事業費を確保しました。

「雇用の確保」につきましては、地元企業の理解促進、高校生向け就職セミナーの拡充など、若年者の就業を支援するほか、失業者などへの雇用機会の創出に努めてまいります。

つぎに、『健やかに育ち、つながりが強いまちをつくる』です。

「学校教育環境の充実」につきましては、学校通学路の安全確保対策として、注意喚起看板の設置や歩道

の整備などを行ってまいります。また、教育の機会を確保するため、知的学級を増設し特別支援教育を充実させるほか、児童生徒の読書活動を促進するため、小中学校の図書資料を拡充してまいります。

「自立生活の支援」につきましては、障害者福祉の向上のため、障害者虐待の未然防止、早期発見、早期対応に向け、障害者虐待防止センター事業を拡充するほか、障害者の社会参加の場を確保するため、市役所での職場実習を行ってまいります。また、高齢者福祉の向上という点では、住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる環境づくりを目指し、地域の高齢者やその家族への支援の拠点となる地域包括支援センターの機能や体制を強化するほか、小規模特別養護老人ホームや認知症高齢者グループホームなどの整備を進めてまいります。

「連携・交流機会の充実」につきましては、スワード市との国際姉妹都市締結 45 周年を迎えることから、記念訪問団の受入れを実施し、記念壁画を共同制作するほか、帯広畜産大学と動物園による共同事業や合同イベントなど、連携事業をさらに強化してまいります。

「子育て支援の充実」につきましては、安心して子育てできる環境づくりを進めるため、市民相互による子育て支援の仕組みとしてファミリー・サポートセンター事業を実施するほか、平成 26 年度の児童会館開館 50 周年に向けたリニューアル事業として、科学展示室を更新するため、プロポーザル方式による展示品の選定を実施してまいります。

「健康づくり」につきましては、夜間急病センターの移転改築工事を行い、安心して医療を受けられる環

境を整備するほか、小規模事業所及び生活保護受給者に対する、胃がん・肺がん検診の受診率向上の取り組みにより、早期発見、早期治療を進めてまいります。また、働き盛り世代の健康づくりとして、企業等が行う健康寿命を延ばす活動の支援や、糖尿病の重症化予防のための取り組みを強化することにより、生活習慣の改善を図ってまいります。

最後に、『地球にやさしく、災害に強いまちをつくる』です。

「公共施設等の安全性の向上」につきましては、避難場所、防災拠点施設、子どものための施設を中心に耐震補強等を行ってまいります。小・中学校の耐震化は、これで全て完了いたします。また、新たな総合体育館の整備に向け、建設規模・内容等の基本調査を実施してまいります。

「環境モデル都市行動計画の推進」につきましては、町内会防犯灯のリース方式による LED 灯の導入に向け、実施事業者の選定を行うほか、旧六中グラウンド跡地において、一部ゼロエネルギー住宅による先導的な低炭素街区を構築するため、条件付一般競争入札により実施事業者を選定してまいります。

「災害などへの備え」につきましては、町内会の防災活動を促進し地域防災力の向上を図るため、コミュニティ防災強化緊急 3 カ年事業として、市町内会連合会等の活動を支援するほか、春先の降雪に備えた除雪体制を整え、安全な道路環境を確保してまいります。

以上が、平成 25 年度予算の重点施策の概要であります。

つづいて、「フードバレーとかち」の取り組みについてご説明いたします。

資料 1 及び資料 2 については、「『フードバレーとかち』のこれまでの取り組みと事業者の主な動き」としまして、平成 24 年度までの取り組みと実績をとりまとめたものです。

来年度の具体的な取り組みにつきましては、資料 3「平成 25 年度 フードバレーとかち関連予算」をご覧ください。

「フードバレーとかち」につきましては、これまでの取り組みにより、芽吹いてきた芽をつぼみへと生長させ、さらには開花につなげていくとの考えから、重点と連動し「強い」産業へと発展させるよう、「産業振興を中心とした地域の発展基盤を強化する」をテーマに事業の組み立てを行っております。

具体的には、昨年 3 月に策定した推進プラン・戦略プランに基づき、取り組みの根幹となるプラットフォームを軸といたしまして、「農林漁業を成長産業にする」、「食の価値を創出する」、「十勝の魅力を売り込む」の 3 つを柱立てとした事業者向けの取り組みを強化するほか、消費者が日常生活の中で「フードバレーとかち」を実感し、参加できる取り組みを、新たに行ってまいります。

以下、3 つの柱立てを中心に、主な取り組みをご説明いたします。

「農林漁業を成長産業にする」につきましては、「優良後継牛確保対策事業」として、生乳生産基盤の安

定化を図るため、効率的に乳用雌牛を増頭できる性選別精液の購入に係る費用助成を行います。

「食の価値を創出する」につきましては、「フードバレーととかち人材育成事業」のカリキュラム体系を改編するとともに、修了者のフォローアップを通じて関係機関への橋渡しを強化し、事業化を支援するほか、「ものづくり総合支援事業」として、コーディネーターの個別支援やセミナーの開催により、魅力ある商品の開発や販路拡大を促進します。

「十勝の魅力を売り込む」につきましては、「市場開拓・販路拡大事業」を、海外ターゲット市場や展開手法を自ら提案する事業者への支援に改めるほか、「東アジア観光プロモーション事業」として、シンガポール、タイ、台湾などをターゲットとした観光客誘致を行います。また、「とかちイメージアッププロジェクト事業」として、JAL、AIR DO 国内線での機内モニター等を活用したPR、『とかちのかち』にスポットを当てたテレビ番組の放映のほか、「幸福駅再生プロジェクト事業」として、幸福駅ゾーンの観光拠点化を図るため、駅舎や周辺設備の整備、40周年を記念した誕生祭などを実施します。

「プラットフォーム」につきましては、オール十勝での取り組みを推進するため、十勝産食材の情報提供や企業間のマッチング、人材育成などの基幹機能を発揮できるよう、「十勝産農畜水産物・加工品の販路拡大」の取り組みとして、ホテルや外食産業向けに、調理方法と併せた十勝産食材の提案を行うほか、「フードバレーととかちロゴマークの商標登録」により、戦略的にPR活動を展開していきます。また、「国際戦略総合特区の活用」により、農業用貨物自動車の車検期間の伸長実証事業を行うほか、「十勝の産業界の未来を切り拓く人材育成事業」として、十勝管内の農林漁業、食品加工等に従事する若者が、自らテーマを設定し、

主体的に行う実地調査・研究等を支援します。

「消費者向け」の取り組みにつきましては、「フードバレーとかちへの住民参加の促進」を図るため、地元情報誌と連携した情報発信やパンフレットの作成のほか、管内イベントとの連携や地元スーパー等でのロゴマーク表示等により、日常生活において「フードバレーとかち」に対する住民の理解を深め、地産地消など地元から応援する機運を高めていきます。

以上が、「フードバレーとかち」の取り組みです。

最後に予算規模につきましては、

一般会計は、	779億1,100万円	であり、前年度対比0.6%の減、
特別会計は合計で、	444億4,872万円	であり、前年度対比1.7%の増、
企業会計は2会計で、	127億3,784万3千円	であり、前年度対比9.2%の減、
全会計で	1,350億9,756万3千円	であり、前年度対比0.7%の減

となっております。

各会計別の予算規模及び事業の詳細につきましては、お手元の資料をご覧ください。

なお、これらの予算につきましては、3月1日招集予定の議会に提案し、ご審議いただくことになっております。